

## 説明文総合 No.2(学校そうじの文化)

L1 標準

Class \_\_\_\_\_ No. \_\_\_\_\_ Name \_\_\_\_\_

レベル:L1(都立共通・神奈川の共通問題レベル)

目標時間:18分

満点:100点(自己採点)

次の英文を読んで、あとの各問に答えなさい。[注]の語句は本文のあとにまとめてあります。文中の(A)～(D)は、問4で使う「文を入れる場所」の印です。

- ① In many countries, schools have cleaning staff, and students do not clean their classrooms. In Japan, however, students clean their own school almost every day. After lunch, music starts, and students take out brooms and cloths. For about fifteen minutes, they sweep the floors, wipe the windows, and clean even the toilets. Teachers often clean with them. Many visitors from other countries are surprised to see this.
- ② Why do Japanese schools have cleaning time? The idea has a long history. In old Japan, cleaning was thought of as( ① ), not just a job. Through cleaning, students learn to take care of the things they use. When you clean your classroom every day, you start to use it more carefully. If you know who cleans the floor, you will not drop trash on it. **A**
- ③ Cleaning time also builds teamwork. In most schools, each group is in charge of a different place — the classroom, the stairs, or the library. Group members plan together, share the work, and help each other. A fifteen-minute job for one person becomes a three-minute job for five people. **B** Students learn that working together makes hard work lighter.
- ④ Recently, this culture has started to travel around the world. In 2016, schools in Singapore introduced daily cleaning time for all students. Some schools in Egypt have also brought in Japanese-style school activities, and cleaning is one part of them. Teachers there say that students have started to use their classrooms more carefully. **C**
- ⑤ Of course, there are different opinions. Some people say that students should use the time for studying, and that cleaning should be done by staff. But many teachers believe that cleaning time teaches something that textbooks cannot: the people who use a place can also take care of it. **D** A clean classroom is not the only goal. The real goal is growing people who care about the places and the people around them.

[注] cleaning staff 清掃員 / broom ほうき / cloth ぞうきん / sweep はく / wipe ふく / stairs 階段 / Singapore シンガポール / Egypt エジプト / opinion 意見

## 説明文総合 No.2(学校そうじの文化) L1 標準

設問 本文の内容について、最も適切なものをア～エから1つずつ選ぼう。

|                                                                                                                                                                                                |     |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 問1(15点) 本文の( ① )に入る最も適切なものはどれか。<br>ア an easy job<br>イ a part of learning<br>ウ a kind of sport<br>エ a waste of time                                                                             | ( ) |
| 問2(15点) 下線部 this(第①段落)の内容として最も適切なものはどれか。<br>ア 日本の学校には清掃員がたくさんいること<br>イ 昼食のあとに音楽をかける学校が多いこと<br>ウ 日本の生徒が掃除の道具を自分で買うこと<br>エ 生徒がトイレまで自分たちで毎日掃除すること                                                 | ( ) |
| 問3(15点) 下線部 in charge of(第②段落)の意味として最も適切なものはどれか。<br>ア ～を担当して<br>イ ～が苦手で<br>ウ ～を禁止されて<br>エ ～から遠ざかって                                                                                             | ( ) |
| 問4(15点) 次の英文を本文中の(A)～(D)のどこかに入れるとき、最も適切な場所はどれか。<br>For example, one student washes the cloths while another moves the desks.(たとえば、1人がぞうきんを洗う間に、別の1人が机を運ぶ。)<br>ア (A)<br>イ (B)<br>ウ (C)<br>エ (D) | ( ) |
| 問5(20点) 本文の内容と合っているものはどれか。<br>ア 日本の生徒は、教室は掃除するがトイレは掃除しない。<br>イ 掃除の時間は、世界のすべての学校にある。<br>ウ シンガポールの学校は、2016年に毎日の掃除の時間を取り入れた。<br>エ 日本の掃除の時間は、勉強の時間を増やすために始まった。                                     | ( ) |
| 問6(20点) この文章のタイトルとして最も適切なものはどれか。<br>ア Learning by Cleaning<br>イ Cleaning Staff Around the World<br>ウ How to Wash Cloths<br>エ Famous Schools in Singapore                                       | ( ) |

とき終わったら かかった時間( 分 秒)→ 次のページの解説で自己採点 → 得点( /100点) まちがえた問題こそ宝。解説の「誤答の切り方」まで読むと、次の1枚で点が変わる。

解答一覧(まず自己採点)

| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 | 問6 | 得点   |
|----|----|----|----|----|----|------|
| イ  | エ  | ア  | イ  | ウ  | ア  | /100 |

問1 正解 **イ**(15点) | 空所補充は「前後の文」が答えを言っている

根拠 直後の文 Through cleaning, students learn to take care of the things they use.(掃除を通して、使う物を大切にすることを学ぶ)が根拠。「learn(学ぶ)」の話が続くので、掃除＝**学びの一部**。not just a job(ただの仕事ではなく)という対比の形もヒント。

誤答の切り方

|   |                                                               |
|---|---------------------------------------------------------------|
| ア | an easy job(楽な仕事)——「not just a job」と言っているので、job系の言葉はそのまま入らない。 |
| イ | a part of learning(学びの一部)＝直後の learn の文と一直線につながる。              |
| ウ | a kind of sport(スポーツの一種)——運動の話は本文のどこにもない。                     |
| エ | a waste of time(時間のむだ)——第⑤段落の「反対意見」側の言葉。ここは掃除を大切にする文脈なので真逆。   |

🔑 この形式のコツ 空所の文に not just ～(ただの～ではない)のような対比があるときは、「～」より一段上の内容が入る。前後1文＋対比の形、この2つで空所問題はほぼ決まる。

問2 正解 **エ**(15点) | 指示語は直前にもどって「代入」して確かめる

根拠 this の直前に書かれているのは「生徒がほぼ毎日、床も窓もトイレまで掃除し、先生も一緒に掃除する」という様子。外国からの訪問者が驚くのはこの光景全体＝エ。代入して「訪問者は【生徒がトイレまで自分たちで掃除すること】に驚く」——意味が通る。

誤答の切り方

|   |                                                |
|---|------------------------------------------------|
| ア | 第①段落の最初で「多くの国では清掃員が掃除する」と言っており、日本の清掃員の話はしていない。 |
| イ | 音楽は掃除の始まりの合図として出てくるだけ。驚きの中心ではない——表面の単語拾い。      |
| ウ | 道具を「買う」話は本文のどこにもない。                            |
| エ | 直前の内容(毎日・トイレまで・自分たちで)をそのまま指せる。代入チェックでも自然。      |

🔑 この形式のコツ 指示語(this / that / it)は、①直前の文にもどる → ②候補を指示語の位置に「代入」して読み直す → ③意味が通るか確かめる。「代入チェック」までやると取りちがえが消える。

## 問3 正解 ア(15点) | 知らない語句は「直後の具体例」から推測する

根拠 each group is in charge of a different place — the classroom, the stairs, or the library と、直後にダッシュ(—)で場所の例が並ぶ。グループごとに別の場所を「受け持つ」=担当する、と読むと、そのあとの「計画を立て、仕事を分け合う」にもつながる。

## 誤答の切り方

|   |                                                 |
|---|-------------------------------------------------|
| ア | 「担当して」——直後の場所の例、そのあとの協力の話と一直線につながる。             |
| イ | 「苦手で」だと、そのあとに助け合って解決する話が必要になるが、本文は最初から前向きな協力の話。 |
| ウ | 「禁止されて」では、そのあとに掃除をしている描写と矛盾する。                  |
| エ | 「遠ざかって」——グループは場所に「行って」掃除をしている。方向が逆。             |

🔑 この形式のコツ 英文のダッシュ(—)やコンマのあとには「直前の語句の具体例・言い換え」が来ることが多い。知らない語句を見たら、まず直後に例がないか探す——例は本文がくれる「注」だ。

## 問4 正解 イ(15点) | For example は「直前の内容の具体例」の目印

根拠 挿入文の For example(たとえば)は、直前に「例のもとになる一般的な説明」が必要。第③段落の share the work, and help each other(仕事を分け合い、助け合う)の直後(B)に置くと、「分け合う」の具体例として完璧にはまる。

## 誤答の切り方

|   |                                           |
|---|-------------------------------------------|
| ア | (A)第②段落は「物を大切に作る心」の話。仕事の分け合いはまだ出ていない。     |
| イ | (B)「仕事を分け合い、助け合う」→その例(1人が洗う間に1人が運ぶ)——一直線。 |
| ウ | (C)第④段落は海外に広がる話。挿入文には国名も海外の内容もない。         |
| エ | (D)第⑤段落は意見と結論の段落。具体的な掃除の動作の例を置くと流れが切れる。   |

🔑 この形式のコツ 挿入文の中の目印(for example, even, however, this など)が「前に何があるべきか」を教えてくれる。for example なら前に「一般的な説明」、however なら前に「反対の内容」。目印→予想→前後だけ確認、の3ステップ。

問5 正解 ウ(20点) | 内容一致は選択肢を本文と「1対1で照合」する

根拠 第④段落 In 2016, schools in Singapore introduced daily cleaning time for all students. と一致。「2016年・シンガポール・毎日の掃除時間」の3点がすべてそろっている。

誤答の切り方

|   |                                                                  |
|---|------------------------------------------------------------------|
| ア | 第①段落に clean even the toilets(トイレまで掃除する)とあり、矛盾する。                 |
| イ | 第①段落の最初に「多くの国では清掃員が掃除し、生徒はしない」とある。真逆。                            |
| ウ | 第④段落の文と完全に一致する。                                                  |
| エ | 「勉強の時間を増やすため」という記述はない。むしろ第⑤段落に「勉強に使うべきだ」という反対意見として出てくる——立場のすり替え。 |

この形式のコツ 内容一致は「なんとなく合ってそう」で選ばない。選択肢1つずつに本文の該当文を探し、①一致 ②矛盾 ③書いていない の3つに分類してつづす。数字や年号がある選択肢は、本文の数字と突き合わせれば速い。

問6 正解 ア(20点) | タイトル問題は「全部の段落をおおう傘」を選ぶ

根拠 ①生徒が掃除する ②学びとしての掃除 ③協力を学ぶ ④世界へ広がる ⑤本当の目的は人を育てること——全段落に共通するのは「掃除＝学び」。Learning by Cleaning(掃除で学ぶ)がすべてをおおう。第⑤段落の「教科書が教えられないことを教える」も強い根拠。

誤答の切り方

|   |                                        |
|---|----------------------------------------|
| ア | 全段落をおおえる唯一の選択肢。結論の「本当の目的は人を育てること」とも一致。 |
| イ | 清掃員の話は第①段落の導入に一瞬出るだけ。一部を全体に見せかけるワナ。    |
| ウ | ぞうさんの洗い方の説明はどこにもない。挿入文の単語だけ拾わせるワナ。     |
| エ | シンガポールは第④段落の例の1つ。傘ではなく骨の1本。            |

この形式のコツ タイトル・主題問題は「その選択肢で全部の段落を説明できるか」を確かめる。1つの段落しかおおえない選択肢は、内容が正しくても×——「一部正しい」は「全体の答え」にならない。

本文の設計図(段落メモ)——復習は「1段落1行」でまとめ直すのが最短

|   |                                       |
|---|---------------------------------------|
| ① | 日本の学校では生徒が毎日掃除する(トイレまで・先生も一緒)——訪問者は驚く |
| ② | 理由1＝掃除は学びの一部(使う物を大切にできる心が育つ)          |
| ③ | 理由2＝チームワーク(分担と協力で仕事が軽くなる)             |
| ④ | この文化は世界へ(2016年シンガポール・エジプトの学校にも)       |
| ⑤ | 反対意見もあるが、本当の目的は「場所と人を大切にできる人」を育てること   |

もう一段のぼる 「学校の文化」は入試の定番テーマ(掃除・給食・部活動・制服)。この1枚の段落構成——現象→理由→広がり→反対意見→結論——は説明文の王道の型。No.3(点字ブロック)でも同じ型を探しながら読んでみよう。

先生向け・運用ノート チャレンジ欄・朝学習用(本文約400語＝共通問題の大問1本分。本文→設問18分＋自己採点で計30分)。身近なテーマなので、読解が苦手な生徒の「入試チャレンジ1枚目」にも向く。配点は問1～4各15点・問5～6各20点。